

北海道大学中央ローン・
農学部前緑地・エルムの森 (札幌市)

札幌市

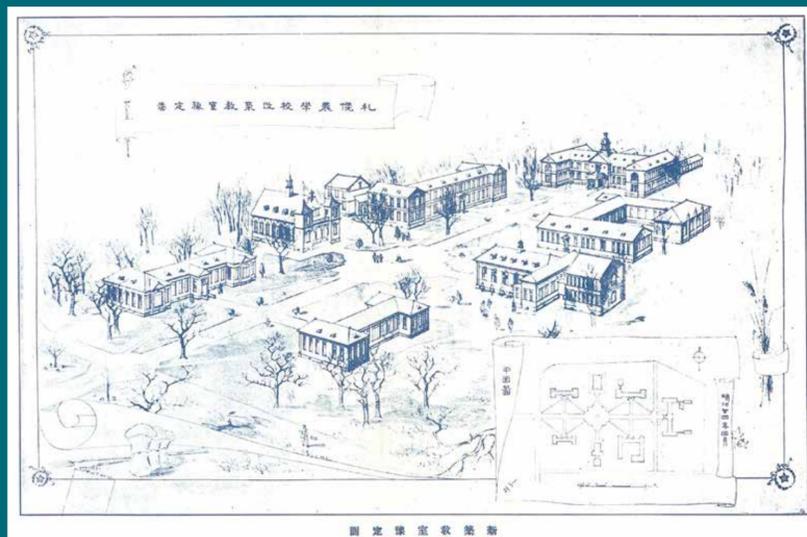


旧札幌農学校昆虫学及養蚕学教室の建物と、樹齢数百年のハルニレの巨木

札幌の原風景を今に伝えるキャンパス

中央ローンは、再生された旧サクシュコトニ川の流路を挟み、なだらかに傾斜するローン(芝生)の散開林であり、農学部前緑地及びエルムの森は、これに連続したハルニレ(エルム)の散開・疎生林である。この地形の変化は、かつての札幌扇状地の末端部の特徴を残しており、樹林は既存木を保護し補植されてきたものである。

ローンと樹林は、休養・レクリエーションの場として、古くから学生・教職員のみならず、市民・観光客にも広く利用されている。また、この一帯はハルニレの多さに加え、農学部前緑地が後期札幌農学校校舎配置の跡をとどめ、保存建築物やクラーク博士像などと相まって歴史的景観を呈し、“エルムの学園”のシンボリック地区として親しまれている。

「札幌農学校改築教室豫定圖」
(「覆刻札幌農学校」北海道大学図書刊行会発行、1975より)

概要

名称	北海道大学中央ローン・農学部前緑地・エルムの森
所在地	札幌市北区北9条西6～9丁目、北10条西8丁目
管理者	国立大学法人北海道大学
種別等	学校・キャンパス
整備年	1899(明治32)年～1903(明治36)年に建設・移転
旧札幌農学校昆虫学及養蚕学教室は国登録有形文化財に登録	



旧サクシュコトニ川の流路と周辺の地形を残している中央ローン